

2019 年度
授業要項 SYLLABUS
理学療法学科



学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校

基礎分野

科目名	心理学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	川野卓二		
科目の概要	人の心や精神を科学としての心理学の方法を用いて理解するための枠組みとなる基本的な事柄を授業で取り上げる。心理現象を様々な立場から理解し判断できるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	序：心理学とは？ なんのために学ぶのか？		
2	適応と不適応		
3	行動と欲求・動機づけ		
4	パーソナリティ		
5	対人認知と社会的態度		
6	コミュニケーション		
7	集団の働きとリーダーシップ		
8	成長と発達		
9	知能と創造性		
10	知覚・認知と経験		
11	記憶と忘却		
12	感情・情動と行動		
13	本能的行動と学習行動		
14	心理学の方法		
15	さまざまな心理学		
16	心理学のこれから		
17	定期試験		
18			
教科書及び参考書	教科書：サトウタツヤ・渡邊芳之（著）「心理学・入門」有斐閣アルマ		
教授方法	講義		
教材	適宜、資料を配布する		
成績評価	まとめノート（30%）・課題（20%）・定期試験（50%）を総合評価する		
	備考		
	(1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。)		

科目名	心理学	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	川野卓二		
科目の概要	患者に対する実践的な応用心理学の理解と自己理解を基盤にした自己実現に向けた演習を行う。医療従事者として現場における即効的・実践的な知識・技術を習得するために、一般心理学の知識を踏まえて社会人基礎力の基礎を獲得することを目的とする。		
回数	講義内容		
1	今後必要とされる力：社会人基礎力(1)		
2	心の問題と問題解決		
3	患者の心理と援助		
4	病気と不安		
5	障害者の心理と援助		
6	社会人基礎力(2)		
7	発達・成長の心理学		
8	自己理解の方法		
9	学習方法		
10	社会人基礎力(3)		
11	コミュニケーション：文章力・会話力		
12	人間関係・協働力		
13	ストレスマネジメント		
14	恋愛・結婚・家族形成		
15	心理的健康と幸福感		
16	定期試験		
17			
18			
教科書及び参考書	なし		
教授方法	講義と演習		
教材	適宜、配布資料を用いる		
成績評価	まとめノート（30%）課題（20%）定期試験（50%）を総合的に評価する		
	備考		

科目名	文学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	余郷裕次		
科目の概要	子どもが最初に接する文学である絵本を取り上げて、その視覚表現と文字表現とのメカニズムを明らかにする。また、文学（絵本）を享受する側のメカニズムを視覚と聴覚との両面から明らかにする。さらに、日本の伝統的短詩形文学である短歌を取り上げて、短歌の実作に取り組む。		
	講義内容		
	<p>1. 絵本の視覚表現について、次の観点から講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① フロントリティー（正面性） ② 画面構成 ③ 色の効果 ④ 進行方向 ⑤ 絵本モニタージュ <p>2. 絵本の文字表現について、次の観点から講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 繰り返し表現 ② 物語性 ③ 文字のデザイン <p>3. 絵本を享受するメカニズムについて、次の観点から講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ベビーシェマ（赤ちゃんの顔）の効果 ② 色の効果 ③ 母親語（motherese）の効果 <p>4. 短歌を取り上げて、自作に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 短歌創作の基礎 ② 短歌の創作 ③ 短歌の連作の創作 ④ 歌集の制作 		
教科書及び参考書	余郷 裕次 著 『絵本のひみつ - 絵本の知と読み聞かせの心 - 』 徳島新聞社		
教授方法	講義		
教材	配付プリント		
成績評価	出席、講義への参加態度、レポート、定期試験等を総合的に評価する		
	備考		

科目名	教育学	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	湯地宏樹		
科目の概要	<p>本授業は、本学のカリキュラムにおける【基礎分野】に位置づけられる科目である。</p> <p>「教育とは何か」について、理学療法士、作業療法士としての自分の問題として振り返ることを目的としている。そのために、保健・医療・福祉の分野と保育・教育学の分野との接点を探りながら、乳幼児期からの人間の成長と発達における教育の意義について考察するとともに、学習指導や生活指導の方法や技術について具体的に学んでいく。</p>		
回数	講義内容		
1	社会の中の看護と教育		
2	教育とはなにかー「教育」の概念		
3	教育の対象ー子ども観と発達		
4	社会変動と教育		
5	教育の組織化ー学校		
6	教授ー人を教えるということ		
7	訓育ー他者とのかかわりを導く		
8	養護ー教育の受け手を見まもる		
9	発達ー教育を受けて成長する		
10	学びの場ー学校と家庭		
11	教育の目標と評価		
12	教育のメディアー教育をデザインする		
13	教育の担い手ー専門性と専門職性		
14	教育の場をつくるしくみ		
15	まとめ		
16	定期試験		
教科書及び参考書	『系統看護学講座 基礎分野教育学(第7版)』医学書院, 2015年 (ISBN978-4-260-02003-9)		
教授方法	授業はおもに講義形式で行う。		
教材	視聴覚教材を使用する。また随時、資料を配布する。		
成績評価	定期試験 (50%)、レポート課題 (30%)、授業への参加度 (20%) を総合的に評価する。		
	備考		
授業はプレゼンテーションソフトを用いて行うので、ノートを活用すること。			

科目名	社会学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	平井昭夫		
科目の概要	社会学の目的は、(1)私たちの身近にあるさまざまな社会現象を学びつつ、(2)社会学的な思考力を身につけていくことにある。講義では、学ぶことを通じて、私たちをとりまく世界を知り、社会のしくみを理解する。そして自分はどうのような社会を生きており、そこで何をしたいのか、何ができるのかを考える出発点としたい。具体的には、①私たちの社会にかかわるさまざまな課題を取り上げ、いかに考え対処していくのか、②古今東西のリーダーが残した言葉を学び、現代社会に生きる私たちの在り方や役割はなにか、などを柱に学習する。加えて、将来の職業人としての資質を養う。		
回数	講 義 内 容		
1	1. 社会学を学ぶ意義	○講義の内容・進め方等についてオリエンテーションを実施	
2	2. 格差と貧困	○なぜ格差問題か	○格差は拡大しているか
3	格差と貧困	○現代社会の貧困	●リーダーに学ぶ(1)
4	3. 恋愛と結婚	○恋愛と結婚の関係	○日本の家族の歴史
5	恋愛と結婚	○結婚と家族の現在	
6	4. ジェンダー	○ジェンダーを理解する	○グローバル化する性別役割分業
7	5. 関係性と暴力	○DVを理解する	○ハラスメントを理解する
8	関係性と暴力	○なぜ暴力に頼るのか	●リーダーに学ぶ(2)
9	6. 権力	○社会学における権力論	○私たちをとりまく権力
10	7. 儀礼と自己	○儀礼とは何か	○さまざまな儀礼
11	儀礼と自己	○現代の儀礼	●リーダーに学ぶ(3)
12	8. 自殺	○現代日本の自殺	○社会学における自殺論
13	9. 医療	○近代医療を理解する	○民族医療と代替医療
14	医療	○医療化する社会	●リーダーに学ぶ(4)
15	10. 社会の中で働くこと	○感情労働の発見	○感情労働としてのケア ●リーダーに学ぶ(5)
	定期試験		
教科書及び参考書	教科書は使用しない		
教授方法	講義が単調にならないよう、「穴埋め式」のプリントを作成・配布し、学生は講義を聞き、記入・完成しながら学習する。また、講義内容について、いくつかのテーマを与えレポートの提出を求める。		
教材	講義用「穴埋め式」のプリント、資料プリント、レポート用紙…講師のほうで準備する。		
成績評価	課題提出(10回程度) … 1回3点を標準とし30点満点、試験…70点満点とする。		
	備 考		
	レポートの提出・返却を通じて、学生とのコミュニケーションを大切にする。		

科目名	物理学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	和田英作		
科目の概要	<p>人体の骨格や筋は力学と、血流や血圧は流体と、神経や心電、脳波は電気と関係があり、物理学は医学の基本として重要なものであることを理解する。また、物理学の本質である論理的にものを考える力を体得する。</p>		
回数	講義内容		
1	物理学の内容、物理学を支える5本柱（力学、熱学、波学、電気学、量子学）		
2	物理量の基本単位（MKSA単位系）、原子構造		
3	1. 力学の世界 (1) 位置 (2) 速度 (3) 加速度		
4	(4) ベクトルと物理量 (5) 力と運動		
5	(6) 円運動と単振動		
6	(7) 運動量と衝突		
7	(8) 仕事量とエネルギー (9) つり合いと変形		
8	2. 熱の世界 (1) 温度 (2) 熱量 (3) 物質の三態		
9	3. 流体の世界 (1) 流体と浮力 (2) 流体の性質		
10	(3) 連続の式と注射 (4) 血圧と注射		
11	4. 波と光と音の世界 (1) 波の表し方 (2) 波の進行速度		
12	(3) 光と色 (4) レンズと光の屈折 (5) 音の3要素		
13	5. 電気と磁気の世界 (1) 電荷・電場・電流 (2) 交流		
14	6. 放射線と微視の世界 (1) 物質の微視的階層と4つの力		
15	(2) 放射線の発生 (3) 放射線の医療への利用		
16			
教科書及び参考書	中村正博 : 「看護・医療技術者のためのたのしい物理」 日本理工学出版社		
教授方法	物理学各分野と医療との関わりを説明し、理解を深めるため例題を解説する		
教材	演習問題のプリントを配付する		
成績評価	定期試験の成績で評価する		
	備考		
	物理学に興味を持ち受講して欲しい。		

科目名	生物学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	山口 寛		
科目の概要	理学療法士、作業療法士として必要な生物学の基礎知識を広く学習する。 細胞、組織器官、器官系の構造と働き、物質代謝とエネルギー代謝、恒常性の維持などについて科学的に学習していく。		
回数	講 義 内 容		
1	第1章 生物と細胞		
2	細胞の構造と機能		
3	細胞の構造と機能（細胞の増殖と測定）		
4	第2章 個体の成り立ち（組織）		
5	個体の成り立ち（器官）		
6	個体の成り立ち（器官系）		
7	第3章 細胞生理 原形質の化学組成		
8	細胞膜の働き		
9	第4章 生体内の物質の流れと働き		
10	物質代謝（同化）		
11	物質代謝（異化）		
12	異化生成物（腎臓の構造と働き）		
13	第5章 からだの恒常性の維持		
14	内部環境としての体液（血液の働きと血液型）		
15	血液によるからだの防衛（抗原抗体反応）		
16			
教科書及び 参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、 演習		
教材	必要に応じて資料作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
受講に対する留意点など：予習と復習に励む。			

科目名	生物学	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	山口 寛		
科目の概要	<p>前期に継続して学習を進める。</p> <p>後期では、からだの恒常性維持、神経系とその働き、刺激と反応、生命の連続性について、DNA中心に分子生物学についても学習する。</p>		
回数	講 義 内 容		
1	第5章 からだの恒常性の維持		
2	神経系とその働き		
3	第6章 外的刺激の受容		
4	感覚器とその働き		
5	からだの内部感覚		
6	第7章 生殖 減数分裂		
7	生殖と受精		
8	第8章 発生 発生の順序		
9	ヒトの発生		
10	発生のしくみ（オルガナイザー等）		
11	第9章 遺伝 メンデルの法則		
12	連鎖と交叉		
13	ヒトの遺伝（血液型、色盲、血友病等）		
14	核酸DNA等の構造と働き		
15	たんぱく質と形質発現、遺伝子組み換えについて		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	新体系看護学基礎科目 「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、問題演習		
教材	必要に応じて資料（プリント）作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
<p>受講に際する留意点など：予習と復習に励む。</p>			

科目名	統計学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	小柴俊彦		
科目の概要	<p>データの取り方, まとめ方, 統計的推測の基本的考え方を学習し “統計学に基づく考え方” を養う。</p> <p>学習内容: 1. データの整理 (1次元データ, 2次元データ)</p> <p>2. 代表値と散布度, 相関係数</p> <p>3. 確率変数と確率分布 (正規分布と応用, t分布等)</p> <p>4. 統計的推測の考え方と検定の方法</p>		
回数	講義内容		
1	1. データの整理		
2	(1) 度数分布表 (2) 度数分布表の図示 (ヒストグラム, 度数折線)		
3	2. 代表値と散布度, 相関係数		
4	(1) 代表値		
5	(2) 散布度		
6	(3) 相関係数		
7	3. 確率変数と確率分布		
8	(1) 確率変数		
9	(2) 正規分布		
10	(3) いろいろな確率分布		
11	4. 統計的推測		
12	(1) 統計的推測の考え方		
13	(2) 母平均の検定		
14	(3) 母平均の差の検定 (I)		
15	(4) 母平均の差の検定 (II)		
16	(5) いろいろな検定		
教科書及び参考書	「基礎統計」著者 高遠節夫他2名:培風館		
教授方法	プロジェクターを用いての講義と演習		
教材	配布資料		
成績評価	定期試験と演習課題		
	備考		
授業中に指示された演習課題は必ず提出すること。			

科目名	英語	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	三浦 博		
科目の概要	<p>英語は今日、国際語として必要不可欠からざる言語となってきた。</p> <p>英語の4能力（読む、話す、聞く、書く）を向上させるのがこのクラスのねらいである。</p> <p>この授業では、毎授業の最初に「リスニング」、講師（授業担当者）作成の（教科書②を使った）英文法プリントで小テストを行う。</p>		
回数	講 義 内 容		
1	英文法 「Unit 1」	listening (Lesson 1)	“Description”
2	” 「Unit 2」	” (Lesson 2)	“Recorded Messages”
3	” 「Unit 3」	” (Lesson 3)	“Conversation 1”
4	” 「Unit 4」	” (Lesson 4)	“Position”
5	” 「Unit 5」	” (Lesson 5)	“Math Quiz 1”
6	” 「Unit 6」	” (Lesson 6)	“Announcement”
7	” 「Unit 7」	” (Lesson 7)	“Graph 1”
8	” 「Unit 8」	” (Lesson 8)	“News”
9	” 「Unit 9」	” (Lesson 9)	“Quick Response”
10	” 「Unit 10」	” (Lesson 10)	“On the Radio”
11	” 「Unit 11」	” (Lesson 11)	“Interview on the Street”
12	” 「Unit 12」	” (Lesson 12)	“Speech”
13	” 「Unit 13」	” (Lesson 13)	“Conversation 2”
14	” 「Unit 14」	” (Lesson 14)	“Math Quiz 2”
15	” 「Unit 15」	” (Lesson 15)	“Report”
	定期試験		
教科書及び参考書	① 「Hyper Listening (Intermediate) 」 3rd Edition 桐原書店 ② 「20 Medical Dialogs」 古閑博美、垂石幸与、他著 鷹書房弓プレス		
教授方法	講義、小テスト、ビデオ使用		
教材	教科書使用、ビデオ使用、プリント使用		
成績評価	定期試験		
	備考		
	<p>受講に際する留意点など：リスニング小テストに関してはテキストにCDがついており、各人クラスへ来る前にCDで家庭学習してくるとよい。</p>		

科目名	医学英語	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	三浦 博		
科目の概要	この授業では理学療法士、作業療法士などを対象とし、リハビリテーションに焦点をあてて作られた教科書を主要テキストとして使う。下欄「教科書および参考書」の②である。また、補助テキストとして医療現場を想定して作られた英会話中心のテキスト（下欄「教科書および参考書」の③）を使う。		
回数	講義内容		
1	授業概要の説明、英語速読トレーニング（10分間）、Listening小テスト		
2	医学用語 (1) Higher Brain Dysfunction	教科書②を使って会話練習	
3	" (2) Parkinson' Disease	②車椅子と移乗動作	
4	" (3) Osteoporosis	②マット訓練	: 1
5	" (4) Cerebral Apoplexy (Stroke)	②マット訓練	: 2
6	" (5) Cardiovascular Disease	②立ち上がり訓練	: 1
7	" (6) Diabetes Mellitus	②立ち上がり訓練	: 2
8	" (7) Respiratory Disease	②歩行練習	: 1
9	" (8) Chronic Rheumatoid Arthritis	②歩行練習	: 2
10	" (9) Femoral Neck Fractures	②呼吸・排痰訓練	: 1
11	" (10) Spinal Cord Injuries	②呼吸・排痰訓練	: 2
12	" (11) Cerebral Palsy	②温熱療法・牽引療法	: 1
13	" (12) Case Study	②温熱療法・牽引療法	: 2
14	" (13) English Essay Writing	②水治療法・利き手交換	: 1
15	" (14) Final Examination	②水治療法・利き手交換	: 2
	定期試験		
教科書及び参考書	① 講師（授業担当者）が準備したプリントを使用 ② THE ART OF HEALING : 荒金房子、村上仁之、マーク・レモン著（南雲堂） ③ 20 MEDICAL DIALOGS : 木関博美、垂石幸与、他著（鷹書房弓プレス）		
教授方法	講義 小テスト ビデオ使用		
教材	教科書2冊、ビデオ使用、プリント使用		
成績評価	定期試験		
	備考		
	教科書②に関して、授業へ来る前に自分なりに辞書を引いて訳をしておくことが必要。 授業出席の際は、「英和辞典」「医学（用語）辞典」などを持参すること。		

科目名	保健学 講義	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、定期的な運動（トレーニング）による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、生活習慣病の予防・健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講義内容		
1	わが国の健康関連状況		
2	トレーニングと骨格筋代謝		
3	トレーニングと呼吸循環機能Ⅰ		
4	トレーニングと呼吸循環機能Ⅱ		
5	トレーニングと神経		
6	トレーニングと骨		
7	筋力・持久力の発育・発達		
8	全身持久力の発育・発達		
9	トレーニングと加齢		
10	トレーナビリティと性差		
11	高血圧症と運動		
12	脂質異常症と運動		
13	糖尿病と運動		
14	肥満症と運動		
15	循環器疾患と運動		
16	認知症と運動		
17	転倒防止と運動		
18	運動強度の設定		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合判断		
	備考		

科目名	体育学 講義	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では一過性の運動による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	身体組成		
2	骨格筋組成		
3	骨格筋の代謝		
4	呼吸機能		
5	循環機能Ⅰ		
6	循環機能Ⅱ		
7	最大酸素摂取量		
8	乳酸性作業閾値		
9	エネルギー消費量		
10	三大栄養素		
11	ビタミン、ミネラル		
12	運動時のエネルギー補給		
13	エネルギー摂取と消費との関係		
14	環境と身体機能Ⅰ		
15	環境と身体機能Ⅱ		
16	環境と身体機能Ⅲ		
17	環境と身体機能Ⅳ		
18	ドーピング		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

科目名	体育学 実習	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法を実践することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	オリエンテーション		
2	バレーボール（基礎的動作の習得）		
3	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅰ）		
4	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
5	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
6	バレーボール（スパイクの習得）		
7	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅰ）		
8	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅱ）		
9	バレーボール（戦術の習得）		
10	バスケットボール（基礎的動作の習得）		
11	バスケットボール（パスの習得）		
12	バスケットボール（ランニングシュートの習得）		
13	バスケットボール（1 v s . 1 のオフENS、ディフェンスの習得）		
14	バスケットボール（2 v s . 1 のオフENS、ディフェンスの習得）		
15	バスケットボール（3 v s . 2 のオフENS、ディフェンスの習得）		
16	バスケットボール（戦術の習得）		
17	ウォーミングアップ、クーリングダウンの効果		
18	スポーツマッサージの効果		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材			
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

專 門 基 礎 分 野

科目名	解剖学 講義	2単位 60時間	1学年 前期
講師名	木戸玲子		
科目の概要			
回数	講義内容	回数	講義内容
1	解剖学とは、骨格(1) 総論	17	筋系(1) 総論、頭部の筋
2	骨格(2) 脊柱	18	骨学・関節学実習(4)
3	骨格(3) 胸郭、上肢①	19	筋系(2) 頸部の筋
4	骨格(4) 上肢②	20	筋系(3) 背部の筋
5	骨格(5) 下肢①	21	筋系(4) 胸部の筋
6	骨格(6) 下肢②	22	筋系(5) 腹部の筋
7	骨格(7) 頭蓋①	23	筋系(6) 上肢の筋①
8	骨格(8) 頭蓋②	24	筋系(7) 上肢の筋②
9	関節・靭帯(1) 総論、頭蓋の連結	25	筋系(8) 上肢の筋③
10	関節・靭帯(2) 脊柱の連結	26	筋系(9) 下肢の筋①
11	関節・靭帯(3) 上肢の連結	27	筋系(10) 下肢の筋②
12	骨学・関節学実習(1)	28	筋系(11) 下肢の筋③
13	関節・靭帯(4) 下肢の連結①	29	筋系(12) 筋の神経支配①
14	骨学・関節学実習(2)	30	筋系(13) 筋の神経支配②
15	関節・靭帯(5) 下肢の連結②	31	
16	骨学・関節学実習(3)	32	
教科書及び参考書	1) 日本人体解剖学(改訂第19版、上・下) 南山堂 2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店		
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習		
教材			
成績評価	定期試験(筆記試験)を行う。不合格者は再試験を行う。		
備考			

科目名	解剖学 講義	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	末梢神経を理解することで、中枢とのつながり（上行性、下行性伝導路）を把握し身体の運動と知覚の理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
1	脳の発生		
2	脊髄神経と神経叢		
3	頸神経叢とその枝		
4	腕神経叢とその枝 ①		
5	" ②		
6	胸神経		
7	腰神経叢とその枝		
8	仙骨神経叢とその枝 ①		
9	" ②		
10	上肢と下肢の発生にともなう神経分布		
11	脳神経 (1～7番)		
12	" (8～12番)		
13	脳幹における脳神経核		
14	下行性（運動性）伝導路		
15	上行性（知覚性）伝導路		
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上）改訂19版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
	授業の前半に前回の復習をする。		

科目名	解剖学 実習	2単位 (分担講義) 60時間/90時間	1学年 後期
講師名	木戸玲子		
科目の概要			
回数	講義内容	回数	講義内容
1	細胞	17	消化器 (2)
2	上皮組織	18	消化器 (3)
3	結合組織 (1)	19	泌尿器
4	結合組織 (2)	20	皮膚
5	軟骨組織	21	感覚器 (1)
6	骨組織	22	感覚器 (2)
7	血液 (1)	23	感覚器 (3)
8	血液 (2)	24	生殖器 (1)
9	筋組織	25	生殖器 (2)
10	神経組織	26	生殖器 (3)
11	脈管系 (1) 心臓	27	内分泌器 (1)
12	脈管系 (2) 動脈系 ①	28	内分泌器 (2)
13	脈管系 (3) 動脈系 ②、静脈系、リンパ管系	29	発生学 (1)
14	リンパ系組織	30	発生学 (2)
15	呼吸器	31	
16	消化器 (1)	32	
教科書及び参考書	1) 日本人体解剖学 (改訂第19版、上・下) 南山堂 2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店		
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習		
教材			
成績評価	定期試験 (筆記試験) を行う。不合格者は再試験を行う。		
備考			

科目名	解剖学 実習	2単位（分担講義） 30時間／90時間	1学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	神経系の大もとニューロンを理解し、大脳と脊髄（中枢神経）の構造とそこから出る末梢神経の働きを理解する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経とは何か、神経系の系統発生、ニューロン、髄鞘形成		
2	シナプス、神経の変性と再生、中枢神経と末梢神経の概念		
3	大脳の外表面の構造と名称		
4	大脳半球内側面の構造と名称		
5	大脳の機能局在（脳地図など）		
6	大脳内部の構造と名称（基底核など）		
7	"（内包、視床、脳室など）		
8	"（線維連絡など）		
9	脳幹の構造と名称（外部から）		
10	"（内部、脳神経核、伝導路）		
11	小脳の構造と名称（外部から）		
12	"（内部、小脳核、伝導路）		
13	小脳の働き（特に錐体外路系における役割）		
14	脊髄の構造（知覚と運動）		
15	脊髄神経、自律神経		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上）改訂19版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
授業の前半に前回の復習をする。			

科目名	生理学 講義	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講義内容		
	<p>1. 生理学の基礎知識</p> <p>生理学とは</p> <p>生理学で用いる単位</p> <p>水の性質</p> <p>水の細胞膜透過</p> <p>細胞の構造と機能</p> <p>物質の細胞膜透過</p> <p>膜の電位と興奮性</p> <p>細胞の情報伝達機構</p> <p>2. 神経のはたらき</p> <p>神経系の構造</p> <p>ニューロンとシナプス作用</p> <p>神経の興奮と伝導</p> <p>中枢神経</p> <p>末梢神経</p> <p>自律神経</p> <p>3. 感覚</p> <p>感覚の種類</p> <p>感覚の一般的性質</p> <p>感覚受容器の機能</p> <p>体性感覚</p> <p>内臓感覚</p> <p>特殊感覚</p> <p>4. 筋肉のはたらき</p> <p>骨格筋の構造</p> <p>骨格筋線維の構造</p> <p>骨格筋線維のタイプ分類</p> <p>骨格筋の収縮</p> <p>ヒトの筋力</p> <p>筋の障害</p>		
教科書	人体生理学の基礎 改訂第2版 (医学出版社)		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	生理学 講義	2単位 60時間	1学年 後期
講師名	江口覚 (20時間) 北岡和義 (40時間)		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で、非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講義内容		
	<p>5. 血液の作用 (江口先生)</p> <p>血液の組成 血液型 止血 血液凝固 赤血球沈降速度 免疫性防衛系</p> <p>6. 体液 (北岡先生)</p> <p>体液量とその区分 体液の組成 水素イオン濃度と緩衝作用 体液の酸塩基平衡 水分の収支 体液の異常</p> <p>7. 呼吸 (北岡先生)</p> <p>呼吸器 呼吸運動 肺容量 換気 肺におけるガス交換 血液によるガスの運搬 肺循環 呼吸運動の調節 呼吸機能障害・異常 運動と呼吸</p> <p>8. 循環と心臓のはたらき (江口先生)</p> <p>心臓 血管</p>	<p>9. 食物の消化・吸収 (北岡先生)</p> <p>消化器系の構成 口腔内の消化 胃における消化 小腸における消化 大腸における消化 排便 吸収 肝臓のはたらき 腸内細菌叢の生理作用</p> <p>10. 尿の生成と排泄 (北岡先生)</p> <p>機能からみた腎臓の解剖と生理機能 尿の生成と排泄 腎機能検査 腎臓のその他の機能</p> <p>11. 体温調節のしくみ (北岡先生)</p> <p>体熱のバランス 体温の調節 発汗</p> <p>12. ホルモン作用 (江口先生)</p> <p>ホルモン作用の特色 臓器ホルモン</p> <p>13. 生殖 (北岡先生)</p> <p>性の決定 男性生殖器の機能 女性生殖器の機能</p>	
教科書	人体生理学の基礎 改訂第2版 (医学出版社)		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	生理学 実習	1単位 45時間	2学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	1年次で得た生理学の講義内容について、実習において自らデータ取得および考察を進めることにより深める。		
回数	講義内容		
	<p>オリエンテーション</p> <p>実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表面筋電による記録 2. 心電図 3. 息こらえとバルサルバ試験 4. 深部感覚 5. 最大酸素摂取量 6. 酸素負債 7. H反射の測定 8. 2点識別閾 		
教科書及び参考書	「コメディカルのための生理学実習ノート」 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第4版		
教授方法	学内実習		
教材			
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	運動学 講義	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	田中弘之		
科目の概要	<p>運動学は、解剖学や生理学等の基礎医学分野を礎として構築され、物理学、心理学、社会学等の多岐にわたる学際的領域の要素をも内包している。</p> <p>本講では、理学療法や作業療法に有用となる運動学の学理的基礎に対する認識を深めるとともに、2年次に開講する運動学実習との連動によって、身体活動を科学的に解析する技能を修得することを目的とする。</p>		
回数	講 義 内 容		
1	力学概論		
2	バイオメカニクス概論		
3	体力医科学概論		
4	運動学総論		
5	運動学各論：骨・関節系		
6	運動学各論：筋系		
7	運動学各論：神経系		
8	運動学各論：感覚器系		
9	運動学各論：呼吸器系		
10	運動学各論：循環器系		
11	運動学各論：代謝系		
12	運動学各論：内分泌系		
13	運動学各論：上肢帯と上肢		
14	運動学各論：下肢帯と下肢		
15	運動学各論：体幹		
16	運動学各論：姿勢		
17	運動学各論：歩行と走行		
18	運動生理学各論：体温調節と暑熱障害		
19	運動生理学各論：運動処方		
20	運動心理学各論：運動発達と運動学習		
教科書及び参考書	中村隆一著「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験等		
	備考		

科目名	運動学 実習	1単位 45時間	2学年 前期
講師名	田中弘之		
科目の概要	1年次の講義内容を実習において深める。		
回数	講義内容		
	<p>実習オリエンテーション</p> <p>実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋力測定 2. 循環機能 3. 呼吸機能 4. 感覚と知覚 5. 生体観察 6. 姿勢と歩行 7. 体力テスト 8. 筋電計とガス分析器操作 9. 筋の作用 		
教科書及び参考書	「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社 「運動学実習手引き書」 配付		
教授方法	学内実習		
教材	「運動学実習手引き書」		
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	人間発達学	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	鈴木敏昭		
科目の概要	<p>人の誕生から老年期までの生涯にわたる心身の成長・発達を解説する。</p> <p>その中で、人の各発達段階における身体生理的特徴、心理的社会的発達の特徴について具体的に学習し、理解を深め、その援助のあり方を追求して、活かせるようにする。</p>		
回数	講義内容		
1	はじめに：人間発達学のねらいと概要		
2	乳児期の身体的生理的特徴		
3	乳児期の心理的特徴と不適応問題		
4	幼児期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
5	幼児期の心理的不適応問題		
6	児童期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
7	児童期の心理的不適応問題		
8	青年期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
9	青年期の心理的不適応問題		
10	成人期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
11	成人期の心理的不適応問題		
12	老年期の身体的生理的特徴		
13	老年期の心理的特徴		
14	老年期の心理的不適応問題		
15	定期試験		
16	解説		
教科書及び参考書	参考書は適宜紹介する。		
教授方法	毎回プリントを配布しながら、心理テストをまじえて、講義する。		
教材	資料プリント		
成績評価	毎回の小提出物と定期試験などを総合的に評価。		
	備考		

科目名	病理学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	伊井邦雄 山下理子 渡邊俊介		
科目の概要	<p>病理学は疾患の原因、病態、症状、経過、合併症、予後を含め、すべての疾患の実体を明らかにし疾患の治療のためにもっとも重要な基礎的及び実質的な事実を知る学問である。総論としてはできるだけ広汎に、各論においては理学・作業療法士が実際に接するであろう代表的な疾患について、できる限り具体的な事柄を詳しく教示する。</p> <p>病理学は実学であるので、総論、各論を含めできるだけ実例を紹介する。</p>		
回数	講義内容		
1	第9・10章	遺伝と先天異常、代謝	(山下)
2	第1・2章	病理学とは、細胞障害と増殖	(伊井)
3	第20・21・23章	皮膚、小児、病理診断	(山下)
4	第3・4章	修復・再生、循環障害	(伊井)
5	第5・6章	炎症、感染	(伊井)
6	第16章	造血器系	(山下)
7	第7・8章	免疫、腫瘍	(伊井)
8	第12章	循環器	(山下)
9	第13章	呼吸器	(伊井)
10	第14章 A・B	上部・下部消化管	(伊井)
11	第14章 C	肝臓・胆嚢・膵臓	(伊井)
12	第15章	内分泌	(山下)
13	第18章 B・19章・22章	脳・神経系、男性生殖器、運動器	(伊井)
14	第17章	泌尿器	(渡邊俊介)
15	第18章 A	女性生殖器・乳腺	(伊井)
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「シンプル病理学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義、スライド等		
教材			
成績評価	定期試験による		
備考			
講義の順序については変更することがある			

科目名	臨床心理学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	古川洋和		
科目の概要	<p>臨床心理学の基本的発想を理解する。</p> <p>一般目標：医療従事者として必要な臨床心理学的発想を理解する。</p> <p>行動目標：①臨床心理学的支援について説明できる。②代表的な臨床心理アセスメントについて説明できる。③代表的な心の健康問題について説明できる。</p>		
回数	講義内容		
1	臨床心理学の目的		
2	臨床心理アセスメント		
3	心理療法・カウンセリングの基礎的技法① 精神分析療法／来談者中心療法		
4	心理療法・カウンセリングの基礎的技法② 認知行動療法		
5	精神疾患と臨床心理学		
6	発達障害		
7	うつ病		
8	不安障害		
9	統合失調症		
10	認知症		
11	身体疾患と心の健康		
12	ストレスと健康		
13	緩和ケアにおける臨床心理学的支援		
14	リハビリテーションにおける臨床心理学的支援		
15	定期試験の講評とまとめ		
教科書及び参考書	指定しない		
教授方法	講義		
教材	スライドならびに配布資料		
成績評価	各回における小テストならびに定期試験		
備考			
定期試験は、国家試験に準じた形式で出題します。			

科目名	一般臨床医学	1単位 30時間	2学年 後期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	<p>身体に起こる種々の障害の把握とその対応の基礎的な事項について学習する。</p> <p>病態生理と医学用語の解説、さらに一般臨床医学として、救急救命、外科、脳外科、皮膚、泌尿生殖器、産婦人科、眼、耳鼻咽喉科の疾患に焦点をあて、教授する。</p>		
回数	講義内容		
1	救急医学（心肺蘇生法、ショック、呼吸管理）		
2	〃（輸血、救急処置）		
3	病態生理・医学用語（全身症状）		
4	〃（局所症状）		
5	〃（局所症状）		
6	〃（基礎医学）		
7	〃（基礎医学）		
8	外科総論		
9	脳外科		
10	皮膚疾患		
11	〃		
12	泌尿・生殖器疾患		
13	婦人科・産科疾患		
14	眼疾患		
15	耳鼻咽喉疾患		
16			
教科書及び参考書	「PT・OTのための一般臨床医学 第3版」 医歯薬出版		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	内科学	1 単位（分担講義） 1 6 / 30 時間	2 学年 前期
講師名	木村 聡		
科目の概要	<p>総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。</p> <p>総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。</p>		
回数	講 義 内 容		
1	消化器疾患 : 食道疾患、胃・十二指腸疾患		
2	消化器疾患 : 腸・肝臓疾患		
3	消化器疾患 : 肝道・膵臓疾患		
4	血液・造血器疾患 : 赤血球・白血球系疾患		
5	血液・造血器疾患 : リンパ系疾患、血漿蛋白の異常、出血性疾患		
6	神経・筋疾患疾患 : 神経学的症状（所見とその意義）		
7	神経・筋疾患疾患 : 神経学的検査、神経系の疾患 1		
8	神経・筋疾患疾患 : 神経系の疾患 2		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	内科学	※ 分担講義	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	<p>総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。</p> <p>総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。</p>		
回数	講義内容		
1	臨床医学総論		
2	症状とその臨床的意義		
3	腎臓・水・電解質 1		
4	腎臓・水・電解質 2		
5	免疫・アレルギー・膠原病 1		
6	免疫・アレルギー・膠原病 2		
7	感染症（性感染症）		
8	たばこの害		
9	生活習慣病・メタボリックシンドローム		
10	癌		
11	認知症		
12	脳卒中 1		
13	脳卒中 2		
14	環境要因に基づく疾患		
15	中毒、総括		
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		
<p>※ 前期内科学対応 8回：1単位（16時間／30時間） 後期内科学対応 7回：1単位（14時間／30時間）</p>			

科目名	内科学	1単位（分担講義）20 / 30時間	2学年 後期
講師名	山田 博胤 若槻 哲三 添木 武		
科目の概要	<p>総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。</p> <p>総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。</p>		
回数	講義内容		
1	循環器内科 : 1		
2	循環器内科 : 2		
3	循環器内科 : 3		
4	循環器内科 : 4		
5	感染症		
6	呼吸器 : 1		
7	呼吸器 : 2		
8	代謝・内分泌 : 1		
9	代謝・内分泌 : 2		
10	中毒		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	整形外科学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	<p>総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。</p> <p>総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。</p>		
回数	講義内容		
	<p>基礎 1-9章</p> <p>診断 11-13章</p> <p>治療 14-15章</p> <p>疾患総論 16-25章</p>		
教科書及び参考書	「標準整形外科学 第13版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	整形外科学	1単位 30時間	2学年 後期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	<p>総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。</p> <p>総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。</p>		
回数	講義内容		
	<p>上肢 26-28章</p> <p>頸椎 29-30章</p> <p>胸腰椎 31章</p> <p>股関節 32章</p> <p>膝関節 33章</p> <p>足関節 34章</p> <p>外傷総論 35章</p> <p>外傷 36-37章</p> <p>神経損傷 38-39章</p> <p>スポーツ 40章</p>		
教科書及び参考書	「標準整形外科学 第13版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	神経内科学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経疾患の特徴とみかた		
2	〃		
3	障害とリハビリテーションプログラム		
4	中枢神経系の解剖と機能		
5	神経学的診断と評価		
6	神経学的検査法		
7	意識障害, 脳死, 植物状態		
8	頭痛, めまい, 失神		
9	運動麻痺, 錐体路徴候, 筋萎縮		
10	錐体路徴候, 不随意運動		
11	運動失調		
12	感覚障害		
13	高次脳障害		
14	構音障害, 嚥下障害		
15	脳神経外科領域の疾患		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第4版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	神経内科学	1単位 30時間	2学年 後期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講義内容		
1	脳血管障害		
2	〃		
3	認知症		
4	〃		
5	パーキンソン病		
6	パーキンソン症候群		
7	脊髄小脳変性症・多系萎縮症		
8	運動ニューロン疾患		
9	免疫性神経疾患		
10	神経感染症		
11	頭痛		
12	てんかん		
13	末梢神経障害		
14	筋疾患		
15	中毒性疾患, 栄養欠乏による神経疾患		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第4版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	精神医学	1 単位 30 時間	2 学年 前期
講師名	大蔵雅夫		
科目の概要	精神医学は医学分野の中でも心の障害に関する学問である。身体医学との違いや、精神医学の発展について学んだ後に、様々な精神障害で出現する精神症状について詳細に学習する。さらに精神障害の診断に必要な検査や精神障害の治療方法について学んだ後、精神障害を器質性、機能性、反応性精神障害に分類した上で、代表的な精神障害の症状、診断、予後、臨床薬学を含む治療について学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	精神医学の理論と特徴		
2	精神医学と精神科医療の歴史		
3	精神症状（1）意識と記憶の障害		
4	精神症状（2）知覚と思考の障害		
5	精神症状（3）感情と意欲・行動の障害		
6	精神症状（4）脳の機能と高次脳機能障害		
7	精神科診断学（1）精神医学における診察法		
8	精神科診断学（2）画像検査と脳波検査		
9	精神科診断学（3）心理検査		
10	精神科治療学（1）薬物療法		
11	精神科治療学（2）身体療法		
12	精神科治療学（3）精神療法と心理社会的治療		
13	器質性精神障害の症状と治療		
14	機能性精神障害の症状と治療		
15	反応性精神障害の症状と治療		
	定期試験		
教科書及び参考書	コメディカルのための基礎分野テキスト 精神医学（中外医学社）		
教授方法	パワーポイントによる講義		
教材	その都度プリントを配布する		
成績評価	定期試験，出席状況，レポート等を総合評価する		
	備考		

科目名	小児科学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	須賀 健一		
科目の概要	小児は成人と違い、その個体があるあらゆる面で成長発育の途上にある。小児の健康を守るためには、新生児、乳児期から思春期を経て成人に至るまでの幅広い対象に対する理解が必要である。小児に対する医療においても、成長の各段階にある患者の生理的、心理的特徴を十分理解した上で、先天的な疾患や、成長の過程のトラブルとして起こる、身体的、精神的疾患について幅広い知識をもつことが必要である。そこで、まず小児の成長、発達について概説し、つづいて小児期の主要な疾患、小児保健におけるトピックスなどについて解説する。		
回数	講義内容		
1	発達と発育		
2	生理		
3	栄養		
4	小児保健・事故・救急処置		
5	先天異常		
6	新生児疾患総論		
7	栄養・代謝性疾患		
8	内分泌疾患		
9	消化器疾患		
10	感染症・呼吸器疾患		
11	血液疾患・固形腫瘍		
12	循環器疾患		
13	アレルギー・自己免疫疾患		
14	中枢神経・筋疾患		
15	腎・泌尿器疾患		
教科書及び参考書	「最新育児小児病学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義		
教材	定期試験による		
成績評価			
	備考		
	講義開始時間を厳守すること		

科目名	老年学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	<p>高齢者ではさまざまな疾患が多発し、死亡率を高めるとともに、認知症、ADL（日常生活動作）低下など、要介護高齢者を増加させる。老年医学には単なる診断、治療だけでなく、ケア、リハビリテーション、終末期医療にいたるまでの多領域を包括するところに特徴がある。本講義では高齢者特有の疾患の病態や特徴、さらに生活機能障害の評価について臨床薬学、栄養学を交えて概説する。</p>		
回数	講義内容		
1	高齢者の定義と人口動態		
2	加齢に伴う生理機能の変化		
3	〃 運動機能の変化		
4	〃 精神心理面の変化		
5	高齢者の生活機能の評価、ケア、リハビリテーション		
6	〃		
7	老年症候群		
8	〃		
9	高齢者特有の疾患（感染症）		
10	〃 （循環器、呼吸器）		
11	〃		
12	〃 （消化器、内分泌、血液、免疫）		
13	〃 （精神神経、骨・運動器）		
14	〃 （腎・泌尿器、皮膚、口腔）		
15	〃 （耳鼻咽喉、眼）		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「老年学 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 第4版」 医学書院		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	リハビリテーション倫理学	1単位 30 時間	2019年度 1学年 前期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	医療人としてリハビリテーションの概念とそのなかで用いられる障害およびチームアプローチについて理解する。		
一般目標	医療に関わる組織人としての倫理について学ぶ。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療提供者としての医療倫理および患者の権利を理解する。 ・人的、組織的および情報等に関する管理を理解する。 ・チーム医療における理学療法士の役割と機能について理解する。 		
回数	講義内容		
1	専門職と倫理		
2	インフォームド・コンセントの歴史的背景と法的、倫理的背景		
3	医療従事者の責務		
4	リハビリテーションアプローチについて		
5	EBM		
6	患者や家族とのコミュニケーション		
7	理学療法アプローチと心理		
8	スタッフと良好な関係を保つ		
9	リスクマネジメントにも不可欠な接遇		
10	接遇とマナー		
11	障害と心理		
12	高齢者、障害者への接し方		
13	個人情報の保護について		
14	個人情報の保護について		
15	ISO		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	リハビリテーション医学（概論）	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	山本 博司		
科目の概要	理学療法士、作業療法士になるために必要なリハビリテーション医学・医療の基本的な知識並びに考え方を学び、障害を診る心を育て、人々の生活機能の回復・向上に対応する医療・福祉を学ぶ。		
回数	講義内容		
1	リハビリテーション医学・医療の成り立ち、理念、障害学		
2	リハビリテーション医療の急性期・回復期・維持期 保健・医療・福祉の連携		
3	リハビリテーション診療の手順、画像診断、電気生理、ADL		
4	治療手技のあらまし、リハ工学		
5	廃用による障害、加齢による障害、発達障害		
6	中枢神経系による運動障害、歩行障害		
7	循環機能障害、呼吸障害		
8	摂食・嚥下障害、排泄障害、褥瘡		
9	高次脳機能障害（失行・失認、言語障害、認知症）のリハ		
10	脳血管障害、頭部外傷のリハ		
11	脊髄損傷のリハ、切断と義手・義足		
12	運動器（RA）疾患のリハ、疼痛のリハ		
13	外傷のリハ、脳性麻痺・筋ジストロフィーのリハ		
14	内部障害・精神障害・悪性腫瘍のリハ		
15	リハビリテーション心理と障害受容 臨床現場での心構え		
教科書及び参考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版 2005 標準リハビリテーション医学 第2版 医学書院 2006 （参考書） 現代リハビリテーション医学 第3版 金原出版 2009 （参考書）		
教授方法	パワーポイント使用		
教材	プリント配付		
成績評価	定期試験		
	備考		

理学療法専門分野 1年

科目名	基礎理学療法学 I	1単位 30 時間	2019年度 1学年 前期
担当教員	向島 充		
科目の概要	現代医療における理学療法について、定義・歴史・業務・治療理論などを学習する		
一般目標	理学療法の原理・役割・医療における位置づけなど、その全体像が把握できるように学習する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション・理学療法について理解し、説明できる ・理学療法士・作業療法士法について理解する ・理学療法の役割と方法について理解する ・理学療法士の活動分野について理解する ・理学療法記録・症例報告書に記載する項目について説明が出来る ・理学療法の課題と展望について理解する 		
回数	講義内容		
1	理学療法の概念		
2	理学療法の歴史・理学療法士/作業療法士法について		
3	理学療法の役割と方法		
4	上記同様		
5	理学療法士の気質と適正、組織と活動、職業倫理と職業管理		
6	理学療法士教育の理念と目的		
7	理学療法士の活動分野		
8	上記同様		
9	理学療法記録		
10	症例報告の書き方と内容		
11	医療事故		
12	臨床実習のあり方		
13	施設における理学療法士の課題と展開		
14	疾患別における理学療法士の課題と展望		
15	まとめ		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	理学療法学概論(第4版) 神陵文庫		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	基礎理学療法学Ⅱ	1単位 30 時間	2019年度 1学年 前期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	リハビリテーションの理念と社会的、地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授するとともに、理学療法の役割についても学習する。		
一般目標	リハビリテーションの理念について理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念について説明できる。 ・リハビリテーションの過程を理解する。 ・理学療法の役割について理解する。 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	リハビリテーションの概念		
3	リハビリテーションの目的		
4	リハビリテーションの諸段階		
5	〃		
6	〃		
7	車椅子操作・体験		
8	車椅子バスケット体験		
9	リハビリテーションにおける関連職種		
10	健康と病気・障がいについて		
11	ICF		
12	〃		
13	リハビリテーションの手段		
14	〃		
15	〃		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	入門リハビリテーション概論 医歯薬出版 プリント		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	基礎理学療法学Ⅲ	1単位	30時間	2019年	1学年・前期
担当教員	松田 寛子				
科目の概要	理学療法学の基礎となる語句・身体の各部名称・運動方向・ランドマークなどの触診について教授する				
一般目標	理学療法の基本となる身体の名称・運動方向・触診について学習する				
行動目標	身体各部の名称が説明できる 関節の運動方向について説明・実技が出来る 触診部位について説明・実技が出来る				
回数	講	義	内	容	
1	解剖学的方向と位置関係①				
2	解剖学的方向と位置関係②				
3	解剖学的人体の各部名称①				
4	解剖学的人体の各部名称②				
5	解剖学的人体の各部名称③				
6	人体の姿勢と肢位の表現について				
7	関節運動方向①				
8	関節運動方向②				
9	関節運動方向③				
10	ランドマーク触診①				
11	ランドマーク触診②				
12	ランドマーク触診③				
13	ランドマーク触診④				
14	ランドマーク触診⑤				
15	触診実技試験				
16					
17					
教科書 参考書	カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・プリント・骨標本・人体				
成績評価	授業出席・授業態度・実技試験・定期試験				
備考					

科目名	理学療法評価学 I	1単位 30 時間	2019年度 1学年 後期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	理学療法の概念を理解し、評価の技術・技能を修得する。		
一般目標	理学療法における評価の意義を理解するとともに、代表的評価法や評価尺度について理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法における評価の目的とポイントを理解する。 ・理学療法評価における観察の意義を理解する。 ・疾患や病態に応じた必要な医学的情報を選択し、患者の全身状態を把握できる。 ・姿勢検査と形態計測の意義、基本的な項目と方法、手順について理解する。 ・関節可動域測定における基本軸と移動軸について理解する。 ・各関節における関節可動域測定について理解する。 		
回数	講義内容		
1	評価の基本概念(本質、目的、視点、構成要素、流れ)		
2	評価の基本概念(記録)		
3	理学療法過程と観察活動		
4	医療面接、一般的評価事項		
5	医学的情報、社会的情報		
6	姿勢と形態(周径、四肢長)		
7	姿勢と形態(周径、四肢長):実技		
8	関節可動域測定について:概論(定義、目的、測定方法、留意事項など)		
9	頸部・上肢の関節運動学		
10	下肢・体幹の関節運動学		
11	関節可動域測定:実技		
12	関節可動域測定:実技		
13	関節可動域測定:実技		
14	関節可動域測定:実技		
15	身体の変形、関節運動学(構成運動、副運動)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	理学療法評価法		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	物理療法学 I	1 単位 30 時間	2019 年 1 学年・後期
担当教員	松田 寛子		
科目の概要	理学療法における物理療法の位置づけ、ならびに物理療法の種類や作用機序・原理について理解する		
一般目標	物理療法における生理学・主な病態を理解し、適応と禁忌の生理学的背景からより、効果的な治療法が考慮できるよう学習する		
行動目標	物理療法の歴史・概念を理解する 物理療法のための生理学的について理解し、特性の概要を述べることができる 物理療法の適応となる主な病態について理解する 適応と禁忌およびリスク管理について理解し、より効果的な治療法が考慮できる		
回数	講	義	内 容
1	物理療法の歴史・定義・体系・治療目的による分類		
2	物理療法のための生理学：皮膚・体温①		
3	物理療法のための生理学：皮膚・体温②		
4	物理療法のための生理学：皮膚・体温③		
5	物理療法のための生理学：筋①		
6	物理療法のための生理学：筋②		
7	物理療法のための生理学：神経①		
8	物理療法のための生理学：神経②		
9	物理療法のための生理学：温熱の効果①		
10	物理療法のための生理学：温熱の効果②		
11	物理療法のための生理学：寒冷・水の効果①		
12	物理療法のための生理学：寒冷・水の効果②		
13	主な病態の理解：炎症・浮腫		
14	主な病態の理解：疼痛		
15	物理療法の効果・適応と禁忌・リスク管理		
16			
17			
教科書	物理療法学		
参考書	PT・OT・ST のための解剖学・人体生理学の基礎		
教授方法	講義・実技		
教材	教科書・参考書・プリント・物理療法機器		
成績評価	授業出席・授業態度・定期試験		
備考			

科目名	義肢装具学 I	1単位 30 時間	2019年度 1学年 後期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	装具療法の対象となる障がいや疾患、下肢装具の構造や機能、適応について学習する。		
一般目標	下肢装具の構造・機能・適応の理解		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・装具の目的を理解する。 ・下肢装具の構造・機能を理解する。 ・下肢装具の適応を理解する。 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	下肢装具総論		
3	下肢装具の部品とその機能		
4	〃		
5	短下肢装具		
6	〃		
7	長下肢装具		
8	〃		
9	膝装具		
10	〃		
11	股装具		
12	小児の装具		
13	足装具		
14	〃		
15	適合判定		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	装具学 中山書店		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	疾患別理学療法学 I	1単位 30 時間	2019年度 1学年 後期
担当教員	向島 充		
科目の概要	理学療法の様々な疾患に対する診かたや理学療法の考え方の基礎自公を中心に確認していく		
一般目標	基礎知識の確認・評価・目標等について学習する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力検査の目的・内容を理解できる ・筋の起始・停止・神経支配・作用等を述べる事が出来る ・各検査が正確に行う事が出来る ・ ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	筋力測定(MMT)の原理について		
2	上記同様		
3	上肢MMT 肩甲帯		
4	上記同様		
5	上肢MMT 肩関節		
6	上記同様		
7	上肢MMT 肘関節		
8	上記同様		
9	上肢MMT 手関節		
10	上記同様		
11	下肢MMT 股関節		
12	上記同様		
13	下肢MMT 膝関節		
14	上記同様		
15	下肢MMT 足関節		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
	実技試験		
	定期試験		
教科書	新・徒手筋力検査法 第9版 (株)協同医書出版社		
参考書			
教授方法	講義・実技		
教材	教科書		
成績評価	定期試験・実技試験		
備考			

科目名	臨床実習 I	1単位 45 時間	2019年度 1学年 後期
担当教員	田中 良・仁木 半・松田寛子・村上和広・向島 充・芳野一也		
科目の概要	<p>1学年後期に配置した臨床実習をいう。基本時間を40 時間とし、これを2期に分け実施する。</p> <p>理学療法士が係わる事業の体系や目的、理学療法士の役割や業務の概要を理解するとともに、指導理学療法士の下に主要な理学療法対象疾患や障害像を捉える。</p> <p>医療従事者としての基本的マナーを体験するとともにこれを理解する。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・指導理学療法士やスタッフ、職員、並びに理学療法対象者の方々に対して、常に誠意を待って対応するとともに、実習学生として相応しい態度や挨拶、言葉使い等による適切な接遇ができる。 ・病院、施設あるいは理学療法士が係わる事業の体系や目的を理解するとともに、管理、運営の概要を理解する。 ・理学療法士の役割、業務、分担等を理解する。 ・理学療法士と係わる他の医療関連職種について、その役割、分担、専門内容の概要を理解する。 ・理学療法士による対象者に対する治療や指導、評価を観察し、既に学内で履修したものについては、その意義を理解するとともに臨床的な実施方法を学ぶ。 ・主な理学療法対象疾患(病態)や障害についての特徴的な臨床像(中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、骨・関節系疾患等)を理解するとともに、疾患の全体像の概要を把握する。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組むことができる。 ・今後の学習への意欲を高めることができる。 		
成績評価	<p>学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。</p>		
備考	<p>実習に際する留意点など:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 		

理学療法専門分野 2年

科目名	理学療法研究法	1単位 30 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	理学療法を広義の科学的視点で検証する手法を教授する。		
一般目標	研究の必要性を理解し、研究の過程・流れを理解する文献抄読を通して先行研究の調査研究を行う。また、文献抄読を通して先行研究の調査研究を行う。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を行う意味、目的の理解 ・研究の過程、流れの理解 ・研究論文作成までのプロセスの理解 ・文献抄読の実施 ・先行研究の調査研究 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	理学療法研究の概要		
3	研究テーマの見つけ方		
4	研究計画		
5	文献の検索・収集の仕方		
6	文献検索・文献抄読の仕方		
7	文献検索・抄録の作成		
8	文献抄読会		
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	〃		
13	〃		
14	〃		
15	〃		
16	文献抄録集提出		
教科書	プリント等		
参考書			
教授方法	講義		
教材	文献・資料		
成績評価	定期試験・文献抄読		
備考			

科目名	病態運動学 I	1単位 30 時間	2019年度 2学年 前期
担当教員	向島 充		
科目の概要	運動学により修得した人体構造における基礎的知識と技術を臨床的に展開し、運動器疾患や障害の病態を知る。又、病態や障害が運動に与える影響を把握し、問題点の理解ができるようになる。		
一般目標	基礎運動学をさらに進め、病態(障害)時の運動を分析するとともに、問題解決の手法や代償の手段を学		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動分析の手法について説明できる ・目的に応じた適切な運動分析手法を選択できる ・運動分析により対象者の運動の特徴を理解するとともに、他の評価からのデータを統合する事が出来る ・病態や障害による運動の特性を理解し、運動療法的アプローチに活用できる ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	病態運動学の概念について		
2	起立姿勢について		
3	起立姿勢保持のための講中料金の働きと重要度について		
4	成長に伴う姿勢の変化		
5	歩行について:歩行とそうこうの定義		
6	歩行について:歩行周期の表現と理解		
7	歩行について:立脚相と遊脚相		
8	歩行について:重心移動について		
9	歩行について:下肢の関節角度の変化について		
10	歩行について:筋活動と特徴		
11	歩行について:上肢の運動		
12	歩行について:小児・高齢者の歩行の特徴		
13	起立姿勢と歩行障害:病態について		
14	起立姿勢と歩行障害:歩行障害の分類と特徴		
15	歩行の臨床的評価について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 臨床運動学 第3版 医歯薬出版		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	病態運動学Ⅱ	1単位 30 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能と臨床上の問題を軸に学習する。		
一般目標	関節運動、動作分析、異常歩行、病態とエネルギー消費、筋活動と筋張力について学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動について理解をする。 ・動作分析により運動の異常を観察して、その異常な運動を分析および記録することができる。 ・筋の生理について理解し、筋活動時における変化や反応、および要因について述べるができる。 		
回数	講義内容		
1	関節の構造と機能、関節の感覚		
2	関節の正常、関節の異常		
3	関節可動性の異常		
4	可動域の制限、関節拘縮		
5	関節拘縮、関節強直		
6	関節拘縮、関節強直		
7	動作分析		
8	動作分析		
9	動作分析		
10	歩行障害、歩容について(一般的所見、特殊所見)、異常歩行の診かた		
11	異常歩行の原因、疼痛による異常歩行、筋疾患による異常歩行		
12	中枢神経疾患による異常歩行		
13	病態とエネルギー消費		
14	筋活動と筋張力(筋の構造、筋の機能、筋電図)		
15	筋活動と緊張力(筋の障害、筋トレーニング)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	臨床運動学 配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	理学療法評価学Ⅱ	2単位（分担講義）30/60時間	2019年 2学年・前期
担当教員	松田 寛子		
科目の概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解しその検査測定を学習する		
一般目標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する		
行動目標	<p>スポーツ外傷・障害領域の疾患を理解し、説明できる</p> <p>各疾患における画像より傷害部位の確認ができる</p> <p>その疾患に必要な検査測定項目を挙げることができる</p> <p>検査測定の目的を述べることができる</p> <p>必要な検査測定を適切に遂行することができる</p>		
回数	講	義	内 容
1	整形外科的検査 総論		
2	整形外科的検査 実技 上肢①		
3	整形外科的検査 実技 上肢②		
4	整形外科的検査 実技 上肢③		
5	整形外科的検査 実技 上肢④		
6	整形外科的検査 実技 下肢①		
7	整形外科的検査 実技 下肢②		
8	整形外科的検査 実技 下肢③		
9	整形外科的検査 実技 下肢④		
10	整形外科的検査 実技 頸部体幹①		
11	整形外科的検査 実技 頸部体幹②		
12	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害①		
13	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害②		
14	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害③		
15	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害④		
16			
17			
教科書 参考書	理学療法評価法・運動療法学（総論・各論）・運動器疾患の理学療法 標準整形外科学		
教授方法	講義・実技		
教材	教科書・参考書・プリント・骨標本・人体		
成績評価	授業出席・授業態度・定期試験		
備考			

科目名	理学療法評価学Ⅱ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	2019年度 2学年 前期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	的確な、かつ正確な理学療法を施行するためには、障害を正しく評価することが大切である。評価の意義を理解し、正しく施行できるように学習する。		
一般目標	理学療法領域で必要な各種の検査、測定を軸に学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種反射を理解し、正しく施行できる。 ・高次脳機能障害の評価について説明できる。 ・運動麻痺の回復段階を理解し、評価することができる。 ・各検査の意義を理解し、述べることができる。 ・脳神経について理解し、評価することができる。 		
回数	講義内容		
1	反射の診かた(腱反射、表在反射、病的反射)		
2	反射の診かた(実技)		
3	反射の診かた(実技)		
4	実技テスト(関節可動域、反射等)		
5	実技テスト(関節可動域、反射等)		
6	高次脳機能障害(失行、失認)		
7	高次脳機能障害(失行、失認)		
8	高次脳機能障害(失語、構音障害)、認知症		
9	高次脳機能障害(失語、構音障害)、認知症		
10	片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test)		
11	片麻痺運動機能検査(12段階式片麻痺機能テスト)		
12	感覚検査、疼痛検査、筋緊張検査		
13	ADL、バランス、歩行の診かた		
14	脳神経検査		
15	脳神経検査		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	配布資料 ベッドサイドの神経の診かた 理学療法評価法		
参考書			
教授方法	講義、実技		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	理学療法評価学Ⅲ	2単位（分担講義）30/90 時間	2019年 2学年・後期
担当教員	松田 寛子		
科目の概要	理学療法領域に必要な各疾患を理解し評価・運動療法まで教授する 運動の方法・種類を教授する		
一般目標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する 運動の方法・種類を理解し、症状に合わせて選択する		
行動目標	整形外科領域の疾患を理解し、説明できる 肩関節疾患における画像より傷害部位の確認が出来る その疾患に必要な検査測定項目の選択・目的を述べさらに遂行することができる 各症状・目的に合わせた運動の種類方法の選択、さらに遂行することができる		
回数	講	義	内 容
1	肩関節疾患 各論①		
2	肩関節疾患 各論②		
3	肩関節疾患 各論③		
4	肩関節疾患 各論④（治療実技）		
5	肩関節疾患 各論⑤（治療実技）		
6	整形外科領域の運動の種類と方法の選択①		
7	整形外科領域の運動の種類と方法の選択②		
8	整形外科領域の運動の種類と方法の選択③		
9	整形外科領域の運動の種類と方法の選択④		
10	整形外科領域の運動・ストレッチング講義		
11	整形外科領域の運動・ストレッチング実技①		
12	整形外科領域の運動・ストレッチング実技②		
13	整形外科領域の運動・ストレッチング実技③		
14	整形外科領域の運動・ストレッチング講義④		
15	整形外科領域の運動・ストレッチング実技⑤		
16			
教科書	運動器疾患の理学療法・運動療法学（総論・各論）		
参考書	標準整形外科		
教授方法	講義・実技		
教材	教科書・参考書・プリント・骨標本・人体		
成績評価	授業出席・授業態度・定期試験		
備考			

科目名	理学療法評価学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	生活習慣病と関わりの深い呼吸、循環(末梢循環)、代謝系の評価の意義と流れについて学習する。		
一般目標	呼吸、末梢循環、代謝機能について学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の生理学について理解し、評価に繋げることができる。 ・呼吸器障害を有する患者の身体的変化について述べることができる。 ・末梢循環障害の病態および評価について理解する。 ・糖尿病について理解する。 ・対象に応じて評価項目を選択し、理学療法士に求められる検査・測定を実行できる。 		
回数	講義内容		
1	呼吸器系の基本構造と弾性的性質		
2	肺における換気とガス交換		
3	呼吸中枢と呼吸調節		
4	呼吸の身体診察:診察の進め方、正常呼吸と異常呼吸、胸郭の変形、聴診法		
5	呼吸の身体診察:主要徴候(呼吸困難、咳・痰、喘鳴、チアノーゼ)		
6	呼吸の身体診察:主要徴候(胸痛、体重増減、樽状胸、ばち状指)		
7	呼吸機能検査:肺気量分画、フローボリューム曲線、換気機能障害の分類		
8	運動負荷試験		
9	排痰法、体位肺痰法のポジション		
10	糖尿病とは(タイプ、合併症、コントロール基準など)		
11	糖尿病の理学療法評価(問診、観察、消費エネルギー、運動機能、再評価など)		
12	糖負荷試験		
13	肥満と糖尿病		
14	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓症血管炎、深部静脈血栓症について(病態、評価など)		
15	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓症血管炎、深部静脈血栓症について(病態、評価など)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	理学療法評価学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 /90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	理学療法領域で必要な検査測定方法を学習する。		
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価法を身に付ける。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検査測定の意味・方法の理解 ・知識と技術の統合 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション・動作分析の実際		
2	動作分析:疾患・症状別		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	発達検査:正常発達		
7	〃		
8	〃		
9	発達検査:発達検査		
10	〃		
11	〃		
12	小児整形疾患の評価		
13	〃		
14	CPの評価		
15	〃		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	理学療法評価法 改訂第3版 神陵文庫		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	運動療法学Ⅱ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	2019年度 2学年 前期
担当教員	村上 和広		
科目の概要	理学療法における運動療法の位置づけ並びに、各種の運動療法についての基礎知識と技術を学習する。		
一般目標	脳血管障害に対しての適切な運動療法を選択および統合し、これを実施し得るよう学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の分類とそれぞれの病態の概要を理解する。 ・片麻痺の運動障害の特徴を述べることができる。 ・高次脳機能障害の概略および評価法について理解する。 ・脳神経検査の概略および評価法について理解する。 ・脳血管障害に対する評価の診かた、考え方について説明できる。 		
回数	講義内容		
1	脳血管障害について(脳卒中の分類、陽性徴候と陰性徴候、運動障害とは)		
2	共同運動、連合反応、姿勢反射活動、痙性、病的反射		
3	典型的肢位、ポジショニング		
4	高次脳機能障害(失行、失認)		
5	高次脳機能障害(失行、失認)		
6	言語障害(失語、構音障害)、高次脳機能障害と半球の関係		
7	言語障害(失語、構音障害)、高次脳機能障害と半球の関係		
8	片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test、12段階式片麻痺機能テスト)		
9	脳血管障害の関節可動域テスト、筋力強化テストおよび訓練について		
10	肩甲上腕関節の亜脱臼、肩手症候群、意識障害		
11	片麻痺患者の訓練阻害因子(支持性、重心、姿勢制御、運動調節、学習反復)		
12	片麻痺患者の異常歩行		
13	脳神経検査		
14	脳病巣の局在診断、脳出血部位の鑑別診断、脳血管閉塞部位と臨床徴候		
15	脳血管障害に対する評価について(診かた、考え方)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	配布資料 ベッドサイドの神経の診かた		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験、出席、レポート		
備考			

科目名	運動療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	向島 充		
科目の概要	末梢神経障害・高齢者の運動療法を提示し、関節可動域・筋力増強等各種運動療法手技・方法などについて学習する。また、QOLについても学習する		
一般目標	末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法、高齢者の運動療法、QOLについて学習する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法について述べる事が出来る □高齢者の運動療法について述べる事が出来る □QOLについて述べる事が出来る ・ ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	末梢神経障害の基礎知識（末梢神経の解剖・神経繊維の分類）		
2	上記同様		
3	末梢神経障害 総論（末梢神経障害の原因・分類）		
4	末梢神経障害 総論（末梢神経障害の臨床症状）		
5	末梢神経障害 総論（再生・治療方法）		
6	末梢神経障害 各論（腕神経叢麻痺）		
7	末梢神経障害 各論（橈骨神経麻痺）		
8	末梢神経障害 各論（正中神経麻痺）		
9	末梢神経障害 各論（尺骨神経麻痺）		
10	末梢神経障害 各論（総腓骨神経麻痺）		
11	末梢神経障害 各論（脛骨神経麻痺）		
12	末梢神経障害 各論（絞扼性神経麻痺）		
13	高齢者の運動療法について		
14	QOLについて		
15	まとめ		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	定期試験		
教科書	運動療法学(各論):医学書院、解剖学:医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	物理療法学Ⅲ	1単位 45時間	2019年 2学年・後期
担当教員	松田 寛子		
科目の概要	理学療法分野における温熱・光線・寒冷・水治・牽引療法について学習する		
一般目標	熱・水・牽引の基礎、生体への影響について学習する 実際の機器の使用方法、管理について学習する		
行動目標	熱伝達の方法について理解し、説明できる 熱・水・光線・牽引が生体に与える影響・効果について説明できる 各療法のリスク管理について説明し、安全な使用方法についても説明・実施できる		
回数	講	義	内 容
1	温熱療法総論		
2	温熱療法の生理学①		
3	温熱療法の生理学②		
4	温熱療法 各論ホットパック		
5	温熱療法 各論パラフィン		
6	光線療法総論		
7	光線療法 各論赤外線療法		
8	光線療法 各論紫外線療法		
9	光線療法 各論レーザー光線療法		
10	温熱療法 各論極超短波療法		
11	温熱療法 各論超音波療法①		
12	温熱療法 各論超音波療法②		
13	寒冷療法総論		
14	寒冷療法各論①		
15	寒冷療法各論②		
16	水治療法総論・生理学		
17	水治療法各論①		
18	水治療法各論②		
19	水治療法実技		
20	牽引療法総論・生理学		
21	牽引療法 各論頸椎牽引療法		
22	牽引療法 各論腰椎牽引療法		
23	牽引療法実技		
教科書	物理療法学		
教授方法	講義・実技		
教材	教科書・プリント・物理療法器具		
成績評価	授業出席・授業態度・定期試験		
備考			

科目名	障害対応生活技術論Ⅱ	1単位 45 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	田中 良		
科目の概要	各疾患のADL障害とその指導法について教授する。また、QOLから考える目標設定や社会資源の活用まで含めた広い意味での物理環境アプローチについて教授する。		
一般目標	各疾患のADL障害とQOLを視野に入れた目標設定やADL訓練を学ぶ。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL評価を含めた各評価結果の統合と解釈ができる。 ・各疾患のADL障害を理解し適切な目標設定と治療プログラムの立案ができる。 ・ ・ ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	疾患別ADL障害〔中枢神経障害①〕		
2	疾患別ADL障害〔中枢神経障害②〕		
3	疾患別ADL障害〔中枢神経障害③〕		
4	疾患別ADL障害〔中枢神経障害④〕		
5	疾患別ADL障害〔中枢神経障害⑤〕		
6	疾患別ADL障害〔中枢神経障害⑥〕		
7	疾患別ADL障害〔骨・関節障害①〕		
8	疾患別ADL障害〔骨・関節障害②〕		
9	疾患別ADL障害〔骨・関節障害③〕		
10	疾患別ADL障害〔骨・関節障害④〕		
11	疾患別ADL障害〔呼吸・循環障害①〕		
12	疾患別ADL障害〔呼吸・循環障害②〕		
13	疾患別ADL障害〔神経筋障害①〕		
14	疾患別ADL障害〔神経筋障害②〕		
15	疾患別ADL障害〔神経筋障害③〕		
16	疾患別ADL障害〔神経筋障害④〕		
17	疾患別ADL障害〔老年期の障害(嚥下障害を含む)①〕		
18	疾患別ADL障害〔老年期の障害(嚥下障害を含む)②〕		
19	疾患別ADL障害〔小児期の障害①〕		
20	疾患別ADL障害〔小児期の障害②〕		
21	疾患別ADL障害〔その他の障害(上肢切断を含む)①〕		
22	疾患別ADL障害〔その他の障害(上肢切断を含む)②〕		
23	動作分析〔クラインフォーゲルバッハの運動学の紹介〕		
	定期試験		
教科書	運動療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL) (神陵文庫)		
参考書	15レクチャーシリーズ 義肢学 (中山書店) 標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 (医学書院)		
教授方法	講義 ・ 実習		
教材	プリント		
成績評価	出席 ・ 定期試験		
備考			

科目名	義肢装具学Ⅱ	1単位 30 時間	2019年度 2学年 前期
担当教員	向島 充・小谷和男		
科目の概要	装具療法について、対象となる疾患や障害、又適応となる装具の構造・機能・適用などについて学習する		
一般目標	上肢装具・体幹装具について、構造・機能・適用を学習する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢装具の構造・適応について述べる事が出来る ・体幹装具の構造・適応について述べる事が出来る ・各装具のチェックアウトや適正症状について述べる事が出来る ・ ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	上肢の解剖・運動学総論1		
2	上肢の解剖・運動学総論2		
3	上肢装具 肩		
4	上肢装具 肘		
5	上肢装具 手・指1		
6	上肢装具 手・指2		
7	上肢装具 手・指3		
8	体幹の解剖・運動学総論1		
9	体幹装具 頭部・頸部1		
10	体幹装具 頭部・頸部2		
11	体幹装具 胸部		
12	体幹装具 腰部		
13	体幹装具 仙部		
14	体幹装具 側湾症		
15	装具の最新トピックス		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	15レクチャーシリーズ 装具学:中山書店		
参考書	義肢装具学第4版:医学書院		
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	義肢装具学Ⅲ	1単位 45 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	廣田茂美・小谷和男		
科目の概要	<p>わが国における切断の現状と欧米における切断の相違に検討を加え、これからの切断の動向を論ずる。 各種切断の原因と切断法、術後管理、リハビリテーションについて教授する。</p> <p>下肢義肢の構造的特性を軸に機能、材料、各種パーツ並びにアタッチメントなどの基礎的知識と適合と修正について教授する。</p> <p>急速に進化する義肢の今後の展開や方向性について論ずる。</p>		
一般目標	<p>切断法、切断術後の理学療法プログラムや切断者の機能に適合した義肢の選択について学習する。 義肢の構造と機能、装着法、異常歩行の原因と修正、切断者の運動療法について学習する。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・切断原因の動向と切断法、切断の合併症、術後の理学療法についてその概要を述べることができる。 ・切断高位や切断者の機能に応じた義肢の選定ができる。 ・下肢義肢、上肢義肢の構造と機能並びに特色の概要を説明できる。 ・異常歩行の原因を考察するとともにその対策ができる。 		
回数	講義内容		
1	切断の原因と動向(総論)		
2	小児切断と高齢者切断の特徴		
3	切断術後の理学療法 : 在来型の理学療法の展開～術直後義肢装着法		
4	切断術後の理学療法 : 断端管理とADL指導		
5	義肢の適応と処方基準		
6	切断の分類と名称 : 義肢の支給体系		
7	義肢の基本的構造と機能・外観の再現		
8	下腿義足 : 種類と構造、特性		
9	: 基本的アライメント		
10	義足足部 : 足継手の種類と構造、特性		
11	: 足部の種類と構造		
12	下腿義足と異常歩行 : 原因と対策		
13	大腿義足 : ソケットの種類と構造、特性		
14	: 膝継手の種類と構造、特性、基本的アライメント		
15	大腿義足と異常歩行 : 原因と対策		
16	体験型大腿義足を用いた歩行体験		
17	股義足 : ソケットの種類と構造、股継手の種類と構造、基本的アライメント		
18	片側骨盤切断と義肢、膝義足 : ソケットの種類と構造、特性、基本的アライメント		
19	サイム義足 : ソケットの種類と構造、基本的アライメント		
20	足部部分切断と義足		
21	上肢義肢の種類と構造、特性		
22	義肢の装着と操作法 : 義足歩行の運動学的分析と消費エネルギー		
23	義肢の最新トピックス		
	定期試験		
教科書	15レクチャーシリーズ義肢学(中山書店)		
参考書	<p>切断と義足(医歯薬出版)</p> <p>義肢装具学テキスト(南江堂)</p> <p>外、適宜紹介する。</p>		
教授方法	実習:講義を含める。		
教材	プリント、資料、義肢、適宜視聴覚教材を用いる。		
成績評価	定期試験、出席、課題レポートにより総合的に評価する。		
備考	受講に際する留意点など:欠損部位の機能と外観の再現を図る義肢学の理解には、基礎となる解剖学や運動学など既習の知識が不可欠である。		

科目名	疾患別理学療法Ⅱ	1単位 30 時間	2019年度 2学年 前期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する。		
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価方法を身につける。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての基礎知識 ・各評価についての基礎知識 ・知識と技術の統合 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	知覚検査		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	徒手筋力テスト(頸部)		
7	〃		
8	徒手筋力テスト(体幹)		
9	〃		
10	〃		
11	徒手筋力テスト(手指)		
12	〃		
13	〃		
14	動作分析・正常動作の観察と分析		
15	〃		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	理学療法評価法 第3版 神陵文庫 新・徒手筋力検査法 原著第9版 協同医書出版社		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	疾患別理学療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	向島 充		
科目の概要	各疾患の理解・評価・運動療法について理解し、臨床実習がより効果的に進められるようにする		
一般目標	Parkinson病の特徴・評価・運動療法について・運動失調症の特徴・評価・運動療法について・脊髄小脳変性症の特徴・評価・運動療法について学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の特徴等基礎知識について述べる事が出来る ・各疾患の運動療法について述べる事が出来る ・各疾患の特徴・基礎知識と運動療法の統合を図る ・ ・ ・ 		
回数	講義内容		
1	Parkinson病(基礎知識:疾患の特徴)		
2	Parkinson病(基礎知識:疾患の症状・予後)		
3	Parkinson病(症状と評価)		
4	Parkinson病(評価の考え方・統合)		
5	Parkinson病(運動療法について)		
6	Parkinson病(症状と運動療法の実際)		
7	運動失調症(基礎知識:疾患の特徴)		
8	運動失調症(基礎知識:疾患の症状・予後)		
9	運動失調症(症状と評価)		
10	運動失調症(評価の考え方・統合)		
11	運動失調症(運動療法について①)		
12	運動失調症(運動療法について②)		
13	脊髄小脳変性症(基礎知識)		
14	脊髄小脳変性症(評価)		
15	脊髄小脳変性症(運動療法)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30	定期試験		
教科書	運動療法学(各論):医学書院、解剖学:医学書院		
参考書	運動器疾患の理学療法:神陵文庫、中枢神経疾患の理学療法:神陵文庫		
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	疾患別理学療法Ⅲ	2単位(分担講義) 30 /90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半		
科目の概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する。		
一般目標	脳卒中の評価と治療プログラムの作成・実施		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての基礎知識の確認 ・各評価と治療についての基礎知識の確認 ・知識と技術の統合 		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	脳卒中の評価		
3	〃		
4	脳卒中の治療:急性期		
5	〃		
6	〃		
7	脳卒中の治療:回復期		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	脳卒中の治療:維持期		
12	〃		
13	〃		
14	ケーススタディー		
15	〃		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	中枢神経疾患の理学療法 第2版 神陵文庫		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	定期試験・レポート		
備考			

科目名	疾患別理学療法学Ⅲ	2単位（分担講義）30/90 時間	2019年度 2学年 後期
担当教員	松田寛子		
科目の概要	骨折・脱臼についての基礎から運動療法に至るまでを教授する 変形性関節症についての基礎から運動療法に至るまでを教授する 心臓の解剖・運動・生理、心臓疾患の病態について教授する		
一般目標	骨折・脱臼における基本的知識から運動療法について学習する 変形性関節症における基本的知識から運動療法について学習する 心臓の機能、疾患について学習する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折の基礎を理解し、運動療法の流れを把握する ・変形性関節症の基礎を理解し、運動療法の流れを把握する ・心臓の解剖・運動・生理、心臓疾患の病態について理解する 		
回数	講義内容		
1	骨折・脱臼総論②		
2	骨折・脱臼総論②		
3	骨折・脱臼各論①		
4	骨折・脱臼各論②		
5	骨折・脱臼各論③		
6	変形性関節症総論		
7	変形性膝関節症①		
8	変形性膝関節症②		
9	変形性股関節症①		
10	変形性股関節症②		
11	循環器基礎①		
12	循環器基礎②		
13	循環器疾患総論		
14	循環器疾患各論①		
15	循環器疾患各論②		
教科書	標準理学療法学運動療法学総論・運動器疾患の理学療法 標準理学療法学運動療法学各論		
参考書	標準整形外科学 病気がみえる2 循環器		
教授方法	講義・実技		
教材	教科書・参考書・プリント・標本		
成績評価	授業出席・授業態度・定期試験		
備考			

科目名	臨床実習Ⅱ	4単位 180 時間	2019年度 2学年 通年
担当教員	田中 良・仁木 半・松田寛子・村上和広・向島 充・芳野一也		
科目の概要	<p>2学年に配置した臨床実習をいう。基本時間を180 時間とし、これを2期に分け実施する。</p> <p>指導理学療法士の指導の下に、代表的疾患や障害に対する基本的な評価実習(観察、面接、検査・測定、統合・解釈)を行い、知識と技術の統合を図る目標を理解し、以下の目標達成に努める。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・関連部門(医師・作業療法部門・言語療法部門・義肢装具部門・看護部門・検査部門・ソーシャルワーク部門・介護支援部門等)から必要な情報を収集することができる。 ・適切な評価法を選択し、対象疾患や障害に対する一連の評価計画の立案ができる。 ・評価計画に沿って評価実習を適切な方法で実施し、既習の知識と技術の整理や確認ができる。 ・関連部門からの情報や評価実習によって収集したデータと既習の知識や文献等から得られた知識を比較・考察し、評価対象者の病態や障害像を捉えその概要を要約することができる。 ・評価対象者の活動を制限する因子や参加を制約する因子を考察し、その大要を述べることができる。 ・評価実習中の対象者の状態や変化を観察するとともに、安全性への配慮ができる。 ・指導理学療法士に対する適切な報告・連絡・相談ができるとともに、指示・指導・助言を求められることができる。 ・記録及び報告が適切な時期に正確かつ客観的に行える。 ・対象者および実習指導者との良好な関係を構築できる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組むとともに、疑問(問題)解決に努めることができる。 		
成績評価	<p>学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。</p>		
備考	<p>実習に際する留意点など:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・実習前に評価法(手順等)、評価技術の演習を行い、確認を行うこと。 ・代表的疾患に対する標準的な評価チャートを準備して実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 		

理学療法専門分野 3年

科目名	総合理学療法学	9単位 90時間	2019年度 3学年 後期		
担当教員	田中 良・仁木 半・松田寛子・村上和広・向島 充・芳野一也 (分担講義)				
科目の概要	一般的な理学療法を独立して安全に実施する為に必要な既習の知識と、臨床実習で得た経験の再統合を図り、即戦力としての実践力を身に付ける。				
一般目標	一般的な理学療法を独立して安全に実施する上で必要な専門知識の再統合を図る。				
行動目標	対象者に適した理学療法プログラムを立案できる。 立案した理学療法プログラムのエビデンスが説明できる。 理学療法を安全に実施する上でのリスクを説明できる。 職業倫理・職場管理を含めた理学療法士の役割が説明できる。				
基礎・専門基礎分野	担当教員	理学療法専門分野	担当教員		
解剖生理	中枢神経	田中	脊髄損傷総論	芳野	
	末梢神経：脳神経を含む	松田	脊髄損傷各論	芳野	
	循環器	松田	義肢	下肢義肢	松田*
	呼吸器	村上		上肢義肢	仁木
	消化器	村上	装具	体幹	仁木
				上肢	仁木
	筋の解剖と生理	向島		下肢・靴型	仁木
	筋の神経支配	向島	物理療法	水治療法	松田*
	脊髄レベル	向島		通電療法	松田*
	骨・関節	芳野		光線療法	松田*
	内分泌	松田		温熱療法	松田*
	感覚器	松田	バイオフィードバック		松田*
	泌尿器	松田	CPM		松田*
病理学	田中	評価法	一般	田中	
反射・発達	仁木		CT・MRI	仁木	
心理	総論		田中	MMT	向島
	性格		田中	ROM	村上
	防御機制		田中	呼吸	村上
	転移		田中	循環	松田
	障害受容	田中	姿勢と歩行		村上
	心理テスト	田中	発達		田中
	心理療法	田中	運動負荷・METS		村上
意識・精神状態	田中	整形疾患	各種読影(X線像・MRIなど)	松田	
精神疾患	田中		肩関節・上肢	向島	
中毒	田中		腰・脊椎・体幹	向島	
老化・老年期疾患	田中		股関節・膝関節・下肢	松田	
リハ概・法律・制度	向島	小児整形	松田	脳血管疾患(CT・MRIなどを含む)	仁木
力学・物理学・運動学	村上	末梢神経損傷	向島	神経筋疾患	芳野
運動負荷・体力	村上	呼吸器疾患の理学療法	村上	循環器疾患の理学療法(心電図含む)	松田
歩行・姿勢	村上	関節リウマチ	芳野	脳性麻痺	仁木
神経筋疾患	芳野	脳性麻痺	仁木	パーキンソン病	向島
脳血管疾患	仁木	失調症(小脳系・脊髄系・その他)	田中	糖尿病・代謝疾患	村上
循環器疾患(心電図含む)	松田	糖尿病・代謝疾患	村上	加齢変化	田中
呼吸器疾患	村上	加齢変化	田中	認知症	田中
内分泌疾患	田中	認知症	田中	障害対応生活技術	田中
骨・関節疾患	村上	障害対応生活技術	田中	EBM・クリニカルパス・医療面接・IL・バリアフリー	向島
パーキンソン症候群	向島	運動学習	芳野	理学療法関連法律系	向島
リウマチ様疾患	芳野	理学療法関連法律系	向島		
感染症	田中				
腫瘍	田中				
生活習慣病	村上				
研究手法系	仁木				
統計学用語系	仁木				
教科書・参考書					
教授方法	講義				
教材	プリント等				
成績評価	定期試験・課題				

科目名	臨床実習Ⅲ	14単位 630 時間	2019年度 3学年 通年
担当教員	田中 良・仁木 半・松田寛子・村上和広・向島 充・芳野一也		
科目の概要	<p>3学年に配置した臨床実習をいう。基本時間を630 時間とし、これを2期に分け実施する。</p> <p>既習の知識や技術を統合、展開し、臨床という場でなければ学ぶことのできない接遇や対応、また理学療法の実践的な技術、チームアプローチについて指導理学療法士の下で学ぶ。</p> <p>理学療法に最低限必要な医療面接や検査・測定を実施するとともに、得られたデータをもとに問題点の抽出や障害となる要因などについて、指導理学療法士の下で考察する。</p> <p>指導理学療法士の下で、治療(介入)計画の立案を行うとともに、理学療法(運動療法や物理療法等)の実習を行う。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・指導理学療法士の指導の下で、理学療法の実習経験を行い、実習終了時には基本的な理学療法を一応、独立して実施できる。 ・指示や処方内容を正確に読み取ることができる。 ・対象例に即した医学的基礎知識を事前に確認するとともに、医療面接、検査測定の実施並びに記録ができる。 ・対象例の問題点と理学療法士が援助可能な事項を挙げることができる。 ・短期、長期の理学療法目標の設定と目標達成のための理学療法計画の立案が指導理学療法士の下でできる。 ・対象者の変化等に対応した報告ができるとともに、理学療法計画の修正が指導理学療法士の下でできる。 ・対象者に対して丁寧で分かりやすい説明と同意ができる。 ・対象例に即した基本的な運動療法や物理療法等の実施が、指導理学療法士の下でできる。 ・対象者および実習指導者との良好な関係を構築できる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組むとともに、疑問(問題)解決に努めることができる。 		
成績評価	<p>学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。</p>		
備考	<p>実習に際する留意点など:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・実習前に運動療法や評価学、臨床医学一般についての知識の確認を行うこと。 ・実習前に運動療法や評価、物理療法等の技術演習を行うこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 		